

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市桂東小学校)

1 平成27年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(学力の基礎基本的の確実な定着【創造】)
2. 豊かな心の育成(お互いを尊重し認め合い共に生きる力【協働】)
3. 健やかな体の育成(心身の健康を維持したくましく生きるための体力【自立】)

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成27年9月1日	評価日	平成27年10月1日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	基礎・基本の学力の定着	授業を中核にしながら、算数教室・家庭学習のさらなる充実	全国学力・学習状況調査、ジョイントプログラムの結果	全国学力・学習状況調査の国語・算数の平均正答率が2～5%全国平均より上回る	⇒	・ 学級(学年)により全国学力・学習状況調査、ジョイントプログラムの結果調査結果に差がある。 ・ めあてを意識することにより、自分の思考の流れを表現できつつある。 ・ 毎月振り返ることにより児童の意識が高まっている。	⇒	・ 地域性を考えて、まだまだ子どもの学力を伸ばせる余地はあると思う。 ・ 押しつけではなく、主体的に取り組ませることとはとてもよいことである。 ・ 目標をもってがんばることは、大切なことだ。
		わかる授業の創造	めあて意識を大切にし、問題場面を把握できる授業づくり	自立解決の場面での解答に至るまでの自分の考えを表現	集団解決の場面での活発な意見交流、発展問題の解答	⇒	・ 全市平均を下回っている教科(学級)の授業の見直しをする。 ・ 児童に考えさせる部分と教員が指導する部分を明確にしていく。 ・ 月目標が単なるスローガンにならないように、常に意識していく。	⇒	・ 地域ボランティアなどによる授業なども取り入れ幅広い学力をつけたい。 ・ 学校と歩調を合わせて地域でも、協力していく。 ・ 家庭でも両親や祖母ががんばる姿を見せたいようにする。
		学習規律の確立	生徒指導部と児童会がタイアップした月目標設定	児童の話す・聞く態度の変容、代表委員会でのふりかえり、	月目標を達成できている児童(学級)が増えること	⇒		⇒	
2	豊かな心	他者を認める心の育成	毎月の「ともだちの日」人権作文の発表	人権作文の発表は全校集会で行い、各学級でふりかえる	授業中の発言内容と作文内容の変容	⇒	・ 書く活動を通して、少しずつ意識できるようになってきている。 ・ 基本的に優しくて親切的な児童が多い。 ・ 保護者・教職員と子どもとの意識の差が気になる。	⇒	・ あいさつに限らず、ほりのある声で話したり返事をしたりするところから取り組むことが大切である。 ・ 自分の思いや考えを伝えることは大人でも難しいので継続的に取り組む必要がある。
		他者に対する心遣いのできる子	学校評価アンケート親切カードの投稿箱設置	友だちとなかよ遊んでいます。	「できている」児童の割合は93.9%	⇒		⇒	・ 見守り隊を中心に地域の大人が粘り強く呼びかけていくほかないと思う。 ・ 家庭でも会話を心がけ、子どもの話をゆっくり聞く時間を作るようにする。
		あいさつのできる子の育成	あいさつ週間の実施学校評価アンケート	だれにでも進んで自分から挨拶しています。	保護者実現度は60.7%子どもは83.9%	⇒		⇒	
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立	「早寝・早起き・朝ごはん」の呼びかけ	「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣がすっかり身についています。	「できている」児童の割合は80.8%	⇒	・ おおむねできている。 ・ かなり多くの児童が運動部活動に所属して、熱心に取り組んでいる。	⇒	・ 体をきたえることは、人間的な成長につながると思う。 ・ 低学年の児童ががんばる高学年の姿を見てよい伝統ができつつある。
		体力の向上	部活動への参加促進全校マラソン大会と朝マラソン	部活動の参加率マラソン参加状況	部活動参加者は6割マラソン参加児童数は9割をこえる	⇒		⇒	・ 引き続き応援を続けていくことが、地域でもできることだと思う。
4	独自の取組	情報発信の充実	積極的なホームページの更新	学校ホームページへのアクセス数	年間67,187回(平成26年度)、平成27年度は、9月末日現在、38,000回を超えるアクセス数	⇒	・ 3年前からホームページの更新が頻繁に行われるようになった。 ・ 五七五の定型に親しみ書く習慣がついている。 ・ 地域の方からも協力していただくことができている。	⇒	・ 学校だけでなく、ホームページで学校の様子がよく分かる。更新を楽しみにしている。 ・ 学校だけでなく、地域の方も環境に対する意識が高いのはいいことだと思う。
		伝統文化にふれる機会	冠句	冠句投稿数	毎月、200を超える投稿数	⇒		⇒	・ 学校からの発信を受け取るだけでなく、よかった点、改善できる点などを積極的に学校に伝えていく努力をする。
		エコライフ推進	牛乳パック・アルミ缶などの回収	牛乳パック・アルミ缶などの回収数	アルミ缶の回収代金は毎月1万円をこえる	⇒		⇒	・ アルミ缶、牛乳パック乾電池など、学校で回収しているものについては積極的に協力していく。